

千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議 平成27年度 シーズ発表会 開催報告

日 時： 平成28年1月29日(金) 13:00－16:15

場 所： ホテルグリーンタワー幕張 ロイヤルクレッセント（千葉市美浜区）

参加者： 57名

あいにくの雨模様の中、公的研究機関、自治体、アカデミア、製薬、農業関係、教育関係、金融機関等幅広い分野の方々に参加頂きました。

挨拶

公益財団法人かずさDNA 研究所専務理事 安田 英夫より主催者挨拶を行いました。



シーズ発表プログラム

講演1 「メタゲノム解析による土壌からの耐熱性酵素の単離とバイオマス利用」

公益財団法人かずさDNA 研究所 バイオ研究開発部 部長 柴田 大輔 氏

地球温暖化対策の一つとして注目されるバイオマス資源を燃料等に利用する取組みが進められているが、変換のエネルギーコストが高いなどの課題があります。このバイオマスを使いこなすように分解する酵素遺伝子を土壌中から取り出す方法を検討した取組みについて紹介をしました。



講演2 「高オレイン酸落花生育種の育成」

千葉県農林総合研究センター 落花生研究室 主任上席研究員 桑田 主税 氏

千葉県農林総合研究センターではかずさ DNA 研究所との共同研究で、動脈硬化の原因となる悪玉コレステロールを減らす効果があるといわれているオレイン酸を多く含有する品種の開発を行っています。

また、これまでに育種した品種、落花生の栽培～加工、栄養などについてもご紹介をいただきました。



講演3 「地場産業振興のためのメタボローム解析による食品分析」

公益財団法人かずさDNA研究所 メタボロミクスチーム チーム長 櫻井 望 氏

千葉県の食品製造企業の製品を高度な成分分析が可能となるメタボローム解析で解析したところ、各企業の製品で含有成分にそれぞれ大きな特徴が見られました。今後その成分を特定することで、製品の販売促進が期待されることについて紹介をしました。



講演4 「野菜の新規な抗酸化機能性」

山口大学 大学研究推進機構 総合科学実験センター 教授 真野 純一 氏

活性酵素を消去する野菜の抗酸化機能について盛んに研究されておりますが、癌や老化に関係が深いアルデヒド型分子種に関する抗酸化機能性については研究が少なく、本発表においてはアルデヒド分子種を消去する野菜成分についてご紹介をいただきました。



まとめ：情報交換会では、研究者・企業間の交流の場としてご活用いただきました。今後の産学官連携と新産業の創出へ繋がることとしております。

参加者の皆様からは、最先端／世界トップレベルの技術情報を説明いただき、勉強になりました。機能性成分、働き等の分析技術のレベルアップとともに、新しい知見が出て新商品に結びつくことを期待したい等のご意見をいただき、盛況のうちに終了しました。